

(2008年2月15日記者配布資料)

国際系の新学部開設構想について

関西学院大学はこのたび、国際系の新学部を開設する構想を進めることとなりました。新学部は2010年4月に西宮上ヶ原キャンパスに開設する方向で構想を進める予定です。2008年の人間福祉学部、2009年の教育学部（設置認可申請に向けて準備中）に続いて、実現すれば11番目の学部が誕生します。

*以下の内容は、2008年2月現在の構想であり、今後検討を進める中で変更する可能性があります。

はじめに

関西学院大学の教育・研究活動は、創立者W.R.ランバスの足跡に象徴されるように、「キリスト教主義」と「国際性」を大きな柱としている。

しかし、グローバル化が進展し、海外留学や海外勤務が日常茶飯事となった今、本学の「国際性」にはまだ発展の余地が残されている。本学の卒業生の多くは産業界に進んでいるが、今後も受け入れ先の企業や社会の要請に応えていくためには、世界のさまざまな地域の文化や言語に対する理解に加えて、経済・社会分野の基礎知識を備えた人材育成が必要である。

新学部では、「国際性の涵養」と「国際事情に関する現代的な争点に対する教育」の実現を目指す。人文・社会科学の基礎力と高い外国語能力に加えて、異文化および自国文化への感受性と責任をもち、自ら進んで課題を発見、解決する人材を育成する。

1. 構想概要

- 1) 学部分野：国際系学部（名称については現在協議中）
- 2) 学科名称：アジア太平洋地域（アジア、オセアニア、北米）に関わる学科を予定
- 3) 設置時期：2010年4月
- 4) 設置場所：西宮上ヶ原キャンパス
- 5) 定員：1学年300人程度

2. 教育目的

- 1) 異文化理解を通じて、自己や自国文化への相対的視点を涵養する。
- 2) 「アジア太平洋地域の共生と繁栄」を視野に入れた地域理解と国際的な発信能力、問題解決能力を育成する。
- 3) 広範な視野と判断能力、高い倫理性を備え、国際的に活躍できる学生を世に出す。

3. 教育の特色

1) アジア太平洋地域に関する学習を基盤とする異文化理解

アジア太平洋地域について、人文・社会科学を中心とした学際的な教育を行う。各地域の文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営に関する幅広い知識の習得を通じて、異文化に対する感受性と理解を深める。その際、「アジア太平洋地域の共生と繁栄」を目的とした、当該地域が直面する現代社会問題をバランスよく学ぶ。また、現地への留学等によって、そのような学びをさらに充実させる。

2) 学際性

「人間教育」としての学際的教養教育を通じて、自発的な問題発見および解決の能力を鍛練する。よって、学生の関心に応じて複数の人文・社会科学分野を中心とした基礎力を養う。また、学際的主題に関する授業科目を設置する。このようにして習得された知識、技能、感性は、どんな進路に進んでも実践的な有用性をもたらす。

3) 外国語のエキスパート養成

外国語の運用能力(実践的なコミュニケーション能力と、読解および文章表現能力)を重点的に4年間を通して養成する。2年生時のどこかで、第1外国語もしくは第2外国語を使用言語とする国への語学研修や海外留学(1カ月～1年)等を推奨する。それ以降も専門科目の修得を通じて、当該言語の運用能力にさらに磨きをかける。こうして、外国語を積極的に運用し、発信できる人材を養成する。

4) 国際性

新学部では、特定地域に関する知識の習得を基盤とするが、異なる国や地域の文化についても広く学べるように、他コース科目の履修も奨励する。特定の地域の同一性に対する批判的な視点を涵養するとともに、アジアと北米、あるいは当該地域と日本の関係など、複数地域にまたがる問題について意識し、真にグローバルな規模で活躍しうる人材を育成する。

4. 卒業後の進路

一般企業(特に国際的な活動や拠点を有する企業)、ジャーナリズム、公務員、シンクタンク、国際的なNGO・NPO、国連などの国際機関、中学・高等学校教員など。

以上